

コロラド州：小麦作柄と気象状況 2010年7月11日現在

概況 コロラド州の2010年7月11日に終わる1週間の気象は、雷雨が平原に発生し平年より低目の気温の気象であった。1週間の州平均稼働日数は6.2日(前週:6.7日)であった。Topsoil及びSubsoilの土壌水分は降雨のお陰で前週より改善した。冬小麦は全体の79%が完熟し、41%が収穫された。完熟、収穫は昨年より早いペースであった。小麦の作柄は前週より評価が上がり、又昨年の作柄より良好と報告された。

コロラド州の2010年産冬小麦の作付け品種は、Hatcher (Colorado State University) が昨年に続き最も多く作付けられ、作付面積の26.5%を占めた。2位はRipper(CSU)の12.5%(2009年産より作付けられた新しい品種)、3位がTAM 11(AgriPro開発品種)で7.5%、4位はJagalene(AgriPro.昨年は2位)の6.8%、5位は古い品種のPrairie Redで5.6%となっていた。トップ10位の品種でコロラド州の冬小麦の作付面積の75.3%(昨年は76.5%)を占めている。Hatcherはコロラド州の冬小麦の主産地区である、East Central及びNorth East地区を中心にSouth East地区の主力品種である。RipperはEC、及びNEにて伸びているが、SE地区では作付けられていない。SE地区ではHatcherに続きJagaleneが主力品種となっている。

2010年7月1日付けのUSDAによるコロラド州2010年産冬小麦の生産量予想では、単位収量は6月1日予想より1.0 bushel/acre増え、昨年実績の40.0 bushelsと同じとなった。生産量予想は92,000,000 bushels(昨年98,000,000 bushels)であった。全米の冬小麦の予想収穫面積(32,085,000 acres)は昨年比で93.0%であるが、単位収量は昨年より6.6%増の46.9 bushelsと予想され、生産量は6月1日予想より2%増の1,505,493,000 bushels(昨年比:98.9%、約40,973千M/T)であった。

土壌水分(*)

(%)		Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil	This week	3	13	82	2
	Last week	11	29	57	3
	Last year	1	16	71	12
Subsoil	This week	3	15	81	1
	Last week	4	31	64	1
	Last year	4	24	66	6

冬小麦の生育状況(*)

	This week	Last week	Last year	5-Yr Avg.
Ripe (%)	79	45	62	85
Harvested (%)	41	21	23	52

冬小麦の作柄状況(*)

(%)	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week	2	5	17	61	15
Last week	2	7	20	56	15
Last year	1	6	24	48	21

(*) Source : National Agricultural Statistics Service, USDA-Colorado Field Office.5-yr avg. means average of 2005,2006,2007,2008 and 2009.

ご質問又はご意見は、OMIC USA Inc.小川正晃 ogawa.max@omicnet.comまでお願い致します。

© Copyright 2002-2009 OMIC USA Inc. All rights reserved.

2010年7月1日付け USDA 冬小麦生産量予想

State	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2009	2010	2009	2010		2009	2010
				June 1	July 1		
Colorado	2,450	2,300	40.0	39.0	40.0	98,000	92,000
USA	34,485	32,085	44.2	46.6	46.9	1,522,718	1,505,493

以上